

## 保育実習の効果的な指導の在り方

## A Method of Effective Practical Teacher Training in Infant Education

開 仁 志

HIRAKI Hitoshi

## I 目的

富山短期大学幼児教育学科では、1年次に付属みどり野幼稚園での教育実習Ⅰ（主として観察実習中心）、外部での保育実習Ⅰの1（主として0～2歳児クラス配属）、保育実習Ⅰの2（外部での施設実習）を行う。2年次には教育実習Ⅰ（主として参加実習中心）を終え、外部での保育実習Ⅱ（主として3～5歳児クラス配属）と保育実習Ⅲ（外部での施設実習）、教育実習Ⅱ（外部での教育実習）を行う。

しかし、学生達から2年次の保育実習Ⅱ・Ⅲにおいて求められることと、それまでの実習において求められることの間ギャップがあるとの指摘を受けることがあった。保育における初心者と見られていた1年次とは違い、2年次には、実習経験者としてある程度のレベルが要求されていると言えよう。

短大では、事前事後指導、実習中の訪問、実習懇談会を行っているが、実際の実習現場ではどのように実習指導が行われているかについて把握していない面もある。そこで、現場での実習指導の実態と、具体的な指導の内容、実習前に短大に望まれる指導内容について明らかに

し、今後の保育実習に役立てたいと考える。

## II 方法

2年次の保育実習Ⅱ・Ⅲ（平成18年6月19日～7月1日実施）終了後、本学幼児教育学科2年生（以下学生）107名にアンケート調査を行い、分析・考察する。

## 1 学生内訳

男子学生	10名	女子学生	97名
計	107名		

## 2 配属施設種類

保育所	101名
施設	6名
計	107名

## 3 実施時期

平成18年7月3日、6日

## 4 回収率

107名中107名（100%）

## III 結果及び考察

## 1 現場で行われている実習指導の実態

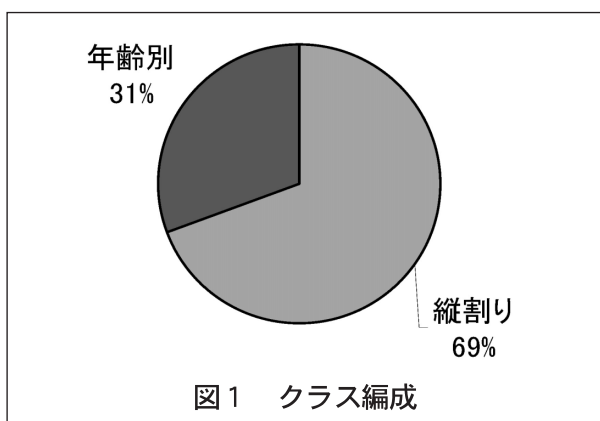
(1) 実習園のクラス編成（図1参照）

実習で配属されるクラスの人数は、最

低で7名、最高44名まで大きく幅があり、平均24.2名であった。

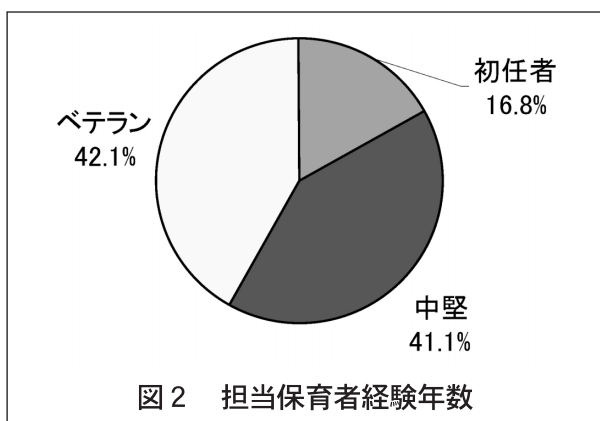
また、年齢別のクラスか縦割り（異年齢）クラスかを調査したところ、保育所に配属された101名中70名（69%）が縦割りクラス、31名（31%）が年齢別クラスということが明らかになった。

次に、担当した年齢（縦割りクラスでは、年齢別活動での担当年齢）を聞くと、3歳児7名、4歳児31名、5歳児31名であった。縦割りクラスの実習で、特に担当した年齢が無かった学生（4、5歳児担当とした学生含む）は、32名である。



(2) 担当保育者の経験年数（図2参照）

実習指導を担当した保育者の経験年数は、初任者（1～5年）が18名（16.8%）、中堅（5～15年）44名（41.1%）、

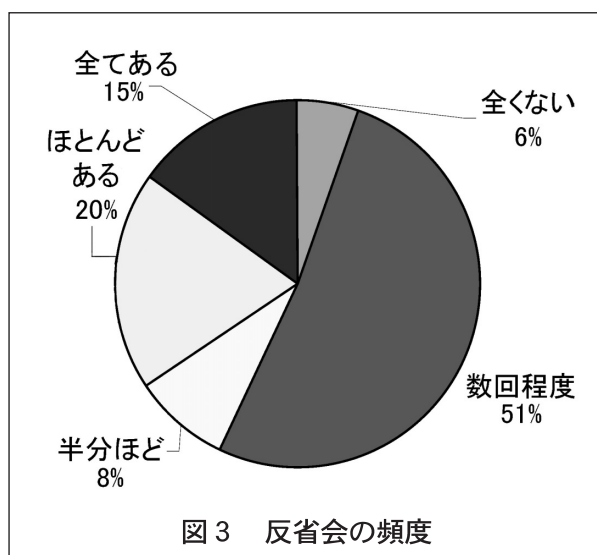


ベテラン（15年以上）45名（42.1%）であり、実習指導を担当する保育者は中堅以上が83.2%を占めている。

日々の保育以外に実習指導を行うことや、指導するために経験からくる知識がいることから実習担当として中堅以上を当てていることが推察される。

(3) 反省会の実施頻度（図3参照）

毎日の保育実習終了後に反省会が行われている頻度を5段階評価で、「全く行われていない」から「全てある」まで回答を得た。「ほとんどある」「全てある」を合わせると34.6%、「数回程度（全日程終了後に1回だけを含む）」「全くない」を合わせると57%になる。付属みどり野幼稚園で行われる教育実習では、毎日反省会が行われることを考えると、ほとんど反省会が行われない園が約6割に上っている。



これは、付属幼稚園は実習を行うことを設立の一つの目的としていることで、学生を受け入れるための体制が整ってい

る（延長保育を行わず、反省会の時間を短大の時間割にも確保すること等の取り組みが挙げられる）が、外部の保育実習園では延長保育を行っているところがほとんどであり、反省会の時間を設けること自体困難であることが推測される。

しかし、その中でも34.6%の実習園で反省会を「ほとんど行っている」「全て行っている」ということは、学生を指導することに対して熱意を持ち、多大な配慮をしているということが伺える。

## 2 指導内容の評価

実習において指導された内容を、5段階評価で聞いた。数字が大きくなるほど、指導に

おいてよい評価を受けていることを示している。

### (1) よい評価の指導内容（図4参照）

一番よい評価を受けているのが、「一人一人をよく見て対応すること」である。事前に付属幼稚園で観察実習を行っているため、子ども一人一人をよく観察して対応する態度が養われていると言えるだろう。

また、9項目中6項目が5段階評価で3以上の評価であり、おおむね学生達はよい評価を受けていると言えるであろう。

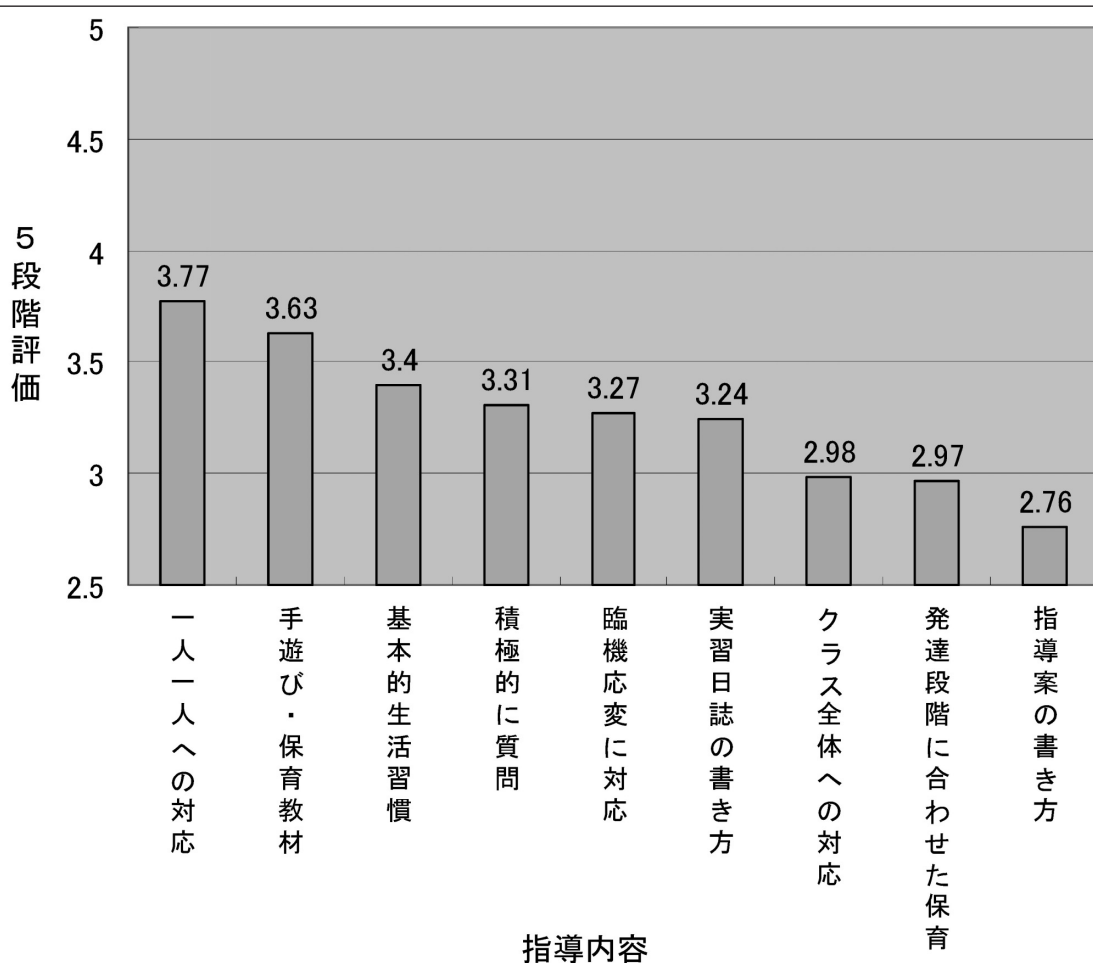


図4 指導内容別評価

(2) 悪い評価の指導内容 (図4 参照)

反対に、5段階評価で3以下の悪い評価を受けているのが、「指導案の書き方」、「発達段階に合わせた保育」「クラス全体への対応」である。

中でも「指導案の書き方」は、低い評価を受け、指導を受けている。原因としては、1年次の実習では指導案を書かない、2年次に行う付属幼稚園の指導案形式と外部の保育実習の形式が違う、実際に指導案を書いて保育を行い評価を受ける体験が少ないことが考えられる。

「発達段階に合わせた保育」について

は、様々な発達段階を経験することで、発達の流れのイメージをつかむことが重要となり、各年齢の保育を体験できるように実習を改善することが今後の課題になる。

「クラス全体への対応」は、付属幼稚園では、1クラスに4, 5人ずつの配属であり、さらに、保育実習Iの1では、0～2歳児の保育が中心であるため、基本的にチームティーチングで行われ、一人でクラス全体への対応をしなくてもよいことからクラス全体への対応をする経験が不足していることが考えられる。

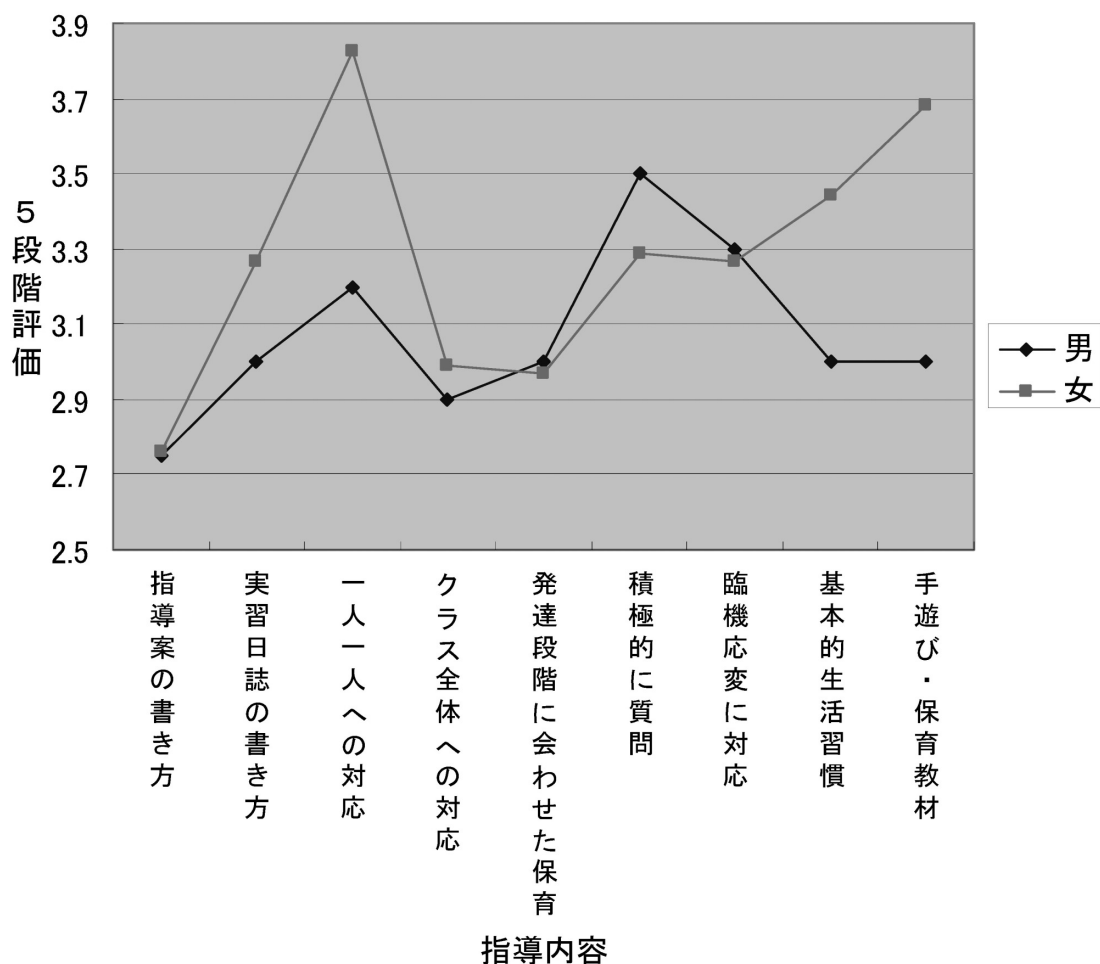


図5 男女別評価

(3) 指導内容の性別差 (図5 参照)

指導される内容に性別差があるか比較すると、「積極的に質問する」の項目以外では、全体的に女子学生の方がよい評価を受けている。中でも、「一人一人への対応」「基本的生活習慣」「手遊びや保育教材の準備」の面で特に女子学生の方が高い評価を受けていることが分かる。今後、顕著な差が見られるものに関しては、短大としても対応する必要があると言えよう。

(4) 担当保育者の経験年数による指導内容の差 (図6 参照)

「手遊びや保育教材の準備」を除いて、担当保育者の経験年数が上がるほど、評価が厳しく指導を受けている。実習を担当する保育者自身が保育経験を積み、保育を見る目を養うことで、学生に伝えるべき指導内容が具体的になり、評価も厳しく指導する傾向があると推察する。

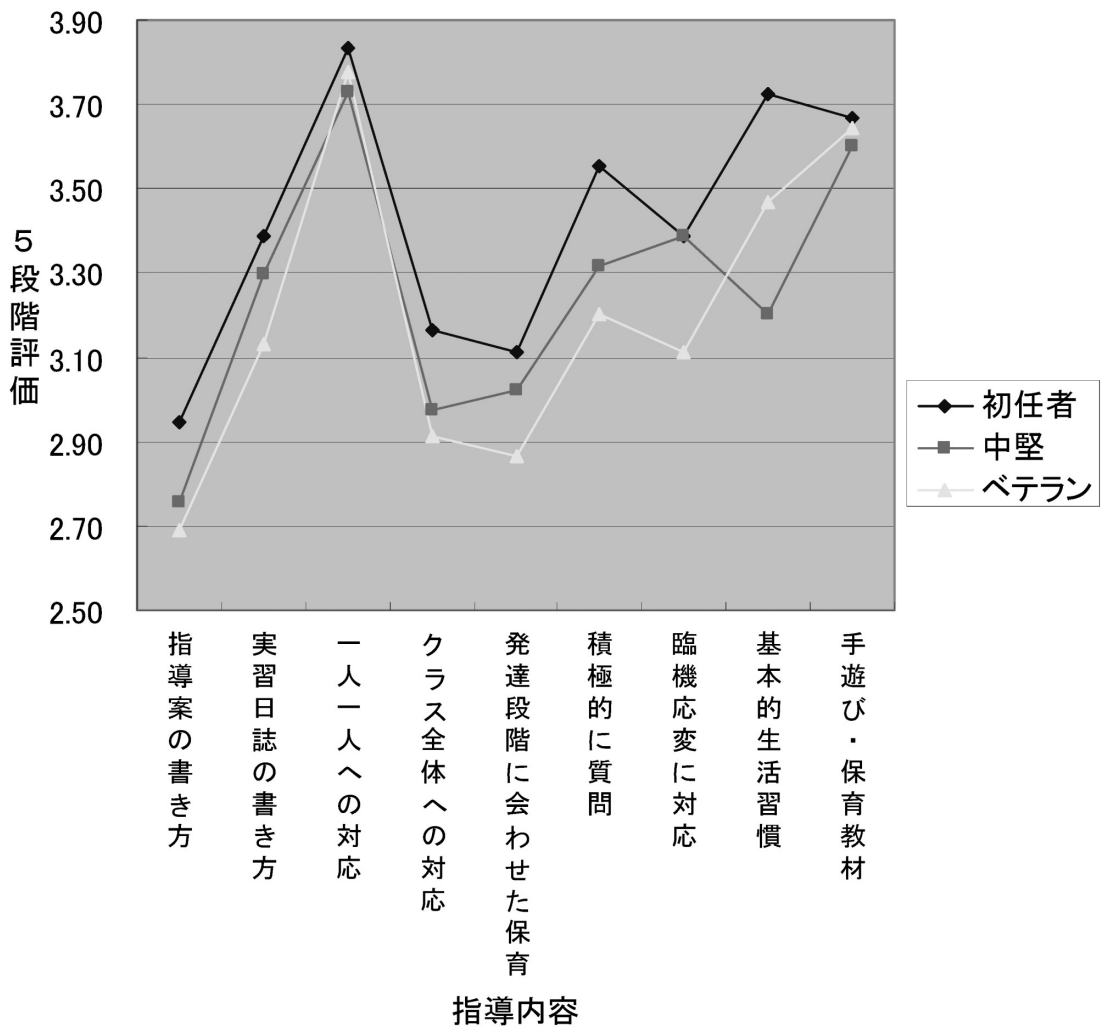


図6 担当保育者経験別評価

### 3 具体的な指導内容

#### (1) 実習日誌の書き方

実習日誌の書き方で具体的に指導された内容を自由記述から分析する。

##### ① よい評価を得た部分

個人に焦点を当てて、詳しく内面まで読み取りエピソードを書くことについての評価が高かった。付属幼稚園で観察実習を長期に渡り行っている成果が表れていると考える。

(主な回答内容)

- ・ 一人一人をよく見て書かれている
- ・ エピソード記述がわかりやすい
- ・ 毎回めあてに沿って書かれていてよい
- ・ きれいな字で詳しく記録してある
- ・ 子どもの動きから自分なりに考察している
- ・ 子どもと学生のかかわりが伝わってきて、向上が見える
- ・ 視点、ポイントをしぼっている
- ・ 会話が入っていて状況がわかる
- ・ 学生の日誌から気付かされることもある

##### ② 指導を受けた部分

分類すると、誤字脱字などの国語表現の仕方について、保育者の思いを具体的に書くこと、全体的・客観的な視点への指摘が見られた。また、短大の日誌形式との違い、指導者による考え方の違いがあり、混乱する学生もいた。

記録をとるだけでなく、今後の課題に結びつく考察の仕方を身につける

ことや、全体的かつ客観的に保育をとらえる視点を伝えていくこと、様々な形式があることを伝えることの必要性を感じた。

(主な回答内容)

<国語表現の仕方について>

- ・ 「ら」抜き言葉、方言は使わない
- ・ 漢字、誤字脱字
- ・ 誰が読んでも伝わる文章にする
- ・ 日本語の使用の仕方、方言を使用しない、話し言葉を書かない
- ・ 中学生レベルの漢字を使って書く  
(論者注：分かりやすいようにという意味と推測される)
- ・ 本などを参考に専門用語を使う。  
(論者注：上の意見と異なり、調べることの大切さを強調)

<保育者の思いを具体的に書く>

- ・ 子どもの姿ばかり書くのではなく保育者がどこを直してどんな風になりたいと思うかを書く
- ・ めあてに沿った考察を書く
- ・ 保育者が実際に行った援助を書く
- ・ 自分で違う、間違っていると思うことでもとにかく思ったことを全て書き込むと、指導がより詳しくできる。ポイントをしぼらずに、もっと細かく書く
- ・ ねらいをもっと具体的に発達年齢に合わせて書く
- ・ 印象に残った部分を多く書いてもよい
- ・ 理由を考えて書いてみる
- ・ 時間帯をきちんと正確に書く

- ・ 考察は、「～だからよかった」「～だからうれしかった」ではなく、もう一歩進んだことを書く

#### <全体的・客観的視点>

- ・ 一人やエピソードを書くよりも、全体を書き、後から見やすい日誌にする
- ・ 子ども一人一人の詳しいことは書かず、たくさんの子どものことについて、より多く見て、誰が何の遊びをしていたか書く
- ・ 保育者の行動と学生の行動を分け誰がしたかわかるように書く
- ・ 保育所の機能、全体の様子、保育者のかかわりから子どもがどう変わっていったか書く
- ・ 子どもがたくさん登場するエピソードや自分のかかわりでの自己満足的な表現はやめる
- ・ 具体的な言葉かけ、場面がわかる説明を書く

#### <形式の違い>

- ・ 名前はイニシャルで書く
- ・ イニシャルではなく先生がわかるように実名でよい  
(論者注：園によって上記のように個人情報取り扱いに差が見られる)
- ・ エピソードのようにだらだらと長く書かず、思ったことを一つ一つ簡潔に書く
- ・ 一日の流れに即した場所に記録を書く
- ・ 一日の流れで、「～する」と書く

- ・ できるだけ無駄を省く
- ・ 空白はないように詰めて、できるだけ一枚にまとめる
- ・ 時間と活動、考察を一例きちんとそろえる
- ・ 一日の流れは全日の時に役立つように子どもたちのしていること等詳しく書く
- ・ 学校の先輩よりも、保育教材での書き方を参考にすればどこでも対応できる
- ・ 子どもの活動と保育者の援助の欄を半分にして分ける
- ・ 名前の後に何歳児か書く
- ・ 子どもの姿・保育者の援助の欄に自分がした出来事、学ぶことができた出来事を書いて、子どもの姿は一番左側に書く
- ・ 一日を通してではなく、遊びの時間だけにしぼって書いてもよい
- ・ 細かすぎると見えにくい、大きく書いて欲しい
- ・ 年齢別か縦割り保育かを記入
- ・ 日誌はワープロで書けないか
- ・ めあてをもっと細かく、全体だけでなく個人名を挙げてよい
- ・ 記録を半分に割り、左側に子どもの細かい姿を書いて、右側に自分のした援助を書く
- ・ 富山県と福井県で形式が違う
- ・ 時間に沿った子どもの活動、それに関わった保育者の援助について書き、子どもと学生のかかわりは書かなくてよい
- ・ 保育者の姿を書かず、援助を書く

「～のために～をする」

- ・ 子どもの姿は大まかな動きだけでよい

## (2) 指導案の書き方

### ① よい評価を得た部分

詳しく援助を書いた学生は評価されているが、全体的に、よい評価を受けていない。

(主な回答内容)

- ・ しっかり書かれている
- ・ たくさん細かく書いている

### ② 指導を受けた部分

全体的に保育者のねらいや援助を具体的に書くことについての指摘が多い。保育者がやるべき動きを羅列的に書くのではなく、どのような目的があってその援助をするのかを明確に書くことが求められている。環境についても図を書くだけでなく、その場での配慮を細かく予想して書くことが大切と指摘されている。指導案を書く前に、子どもの姿や保育者の援助についてどこまで予想して、準備、シミュレーションできるかという力が求められる。よって指導案に書くべき量が増える傾向があり、短大で行っている書き方指導では足りず、実際に保育するときのねらい、内容、援助までつながる指導案の作成能力が求められている。

(主な回答内容)

<保育者の援助等への具体性>

- ・ 書くと限らない量になるが、書いておくと、その場でしっかり対応で

きるから書いておくことは大切

- ・ 子どもの起こり得る行動や質問をしっかりと予想するとよい
- ・ 環境構成での保育者の立ち位置を活動に合わせて変える
- ・ 子どもの姿とねらいを一致させる
- ・ 発達年齢に合わせたねらいを書く
- ・ 好きな遊びの時間に、遊びごとの援助を詳しく書く
- ・ 工作では、指導案だけではなく、完成品と実際に子どもに配る物を見せる
- ・ 子どもたちの発達の様子や短い期間で活動することを考えるとよい
- ・ 保育者の配慮・留意点は、保育者の行動だけを書くのではなく、子どもの育ちのために、どのような援助をするか書く「～できるように配慮する」、保育者の気持ちを加えるとよい。「次の行動に移りやすいように」など
- ・ 環境構成は、工夫する点、危険物、温度、配慮を書く、図だけではだめ
- ・ 早く見せてアドバイスを心得る
- ・ 晴れと雨の場合を分けて書く
- ・ 指導案に指導者の所感を書くところがない、普通ある
- ・ 誰が見てもわかるように書く
- ・ 子どもの姿は実習が始まってからの姿を具体的に書くとよい
- ・ 保育者の動きが分かるように図を書くるとよい
- ・ ねらいが大きすぎるので、やりたいことを一つにしぼる。「～して○



## ○を楽しむ」

- ・ 活動だけではなく、「～だからこうする」のように、ねらいなども書いた方がよい
- ・ ねらいは保育所保育指針を見て書くまとまる
- ・ 予想される子どもの姿はよい部分だけではないので、色々な場面を考える
- ・ 全日実習では、流れとは別に課題活動の指導案を書く
- ・ 子どもが保育室を移動する時の援助を書く
- ・ 時間配分を詳しく書く
- ・ トラブルへの対処を詳しく書く
- ・ 指導案は何枚になってもよいからしっかりと書く
- ・ 決まり事をそのまま指導案には書かない
- ・ 内容が盛りだくさんになるより、一つのことをじっくりとする
- ・ 進み方に差のある子どもへの対応
- ・ 子どもの姿は、一日のことは見て書くのではなく、その指導案を書く時間帯の普段の様子を具体的に書く
- ・ ねらい、内容のつながりがあるように具体的に書く
- ・ 自由遊びについても環境構成で必要な物を書く

## &lt;表記・書き方について&gt;

- ・ 左右を対応させて書く
- ・ 子どもへの書き方ではない表現  
子どもたちに質問をぶつける→投げかける、問いかける

- ・ 「プレイルーム」は「遊戯室」
- ・ 「上手」という言葉は書かない
- ・ 子どもの活動には、子どもの姿を書かない
- ・ 子どもの姿は具体的に書かなくてよい
- ・ 援助の所にマイナス的なことは書かない
- ・ 間違ったところは、赤ペンで付け加えて書く
- ・ 実習後にもっと書けばよいと思われたところは赤ペンで書く
- ・ 予想される子どもの活動一つ一つに横をそろえて配慮することを書く
- ・ 自分の言うせりふは書かずに自分のノートにメモしておく
- ・ 保育者の援助の欄には環境よりも、保育者の援助や様子を詳しく書く
- ・ メインのものの横には記号をつける
- ・ 「いざこざ」という言葉を使わない
- ・ セリフをつけると限定されるのであまり書かない
- ・ ねらいは、「～できる」から「～する」に直す
- ・ 「～してもらおう」ではなく、「～する」
- ・ 予想される子どもの活動にマイナスのことは書かない
- ・ 「～する子がいる」などと書くのはやめる
- ・ 語尾をそろえる

### <心構えについて>

- ・ しなくてはならないことをしていないからだめな子どもではない。みんなと一緒にすることをさせるのがよい保育か考える
- ・ 書き直したり、付け加えたりすることが学びにつながる
- ・ よいこと、悪いことにかたよらずに書く
- ・ その保育室で注意しておきたい子どものことを書き、その保育室独自の指導案を作成する
- ・ 指導案を誰が見ても実行できる指導案にする

### (3) 保育を行う上での指導

#### ① よい評価を得た部分

子ども一人一人への対応、挨拶、掃除などの基本的な生活習慣については、好評を得ているようである。

(主な回答内容)

- ・ 優しい言葉がけで子どもがしたっている
- ・ 子どものトラブルに丁寧に対応している
- ・ 笑顔や挨拶がよい
- ・ 子どもの気持ちをくみ取っている
- ・ そうじを頑張っている
- ・ あきらめずにかかわる姿勢がよい

#### ② 指導を受けた部分

個人だけではなく全体を見る視点、積極的な援助、発達年齢に合わせた保育、保育の流れを大切にすることなどの指摘が見られる。付属幼稚園とは違い、一人

でクラスを見る担任実習があることや、異年齢のクラスが多いこと、時間の意識が明確であることなどが、学生のとまどいの原因になっていると考えられる。

(主な回答内容)

### <全体を見る視点>

- ・ 活動に参加していない子どもへの援助
- ・ 子ども全員の活動が見られるように座り方、立ち位置を工夫
- ・ 保育者が子どもたちにしっかり指導（次に何をするか）しないと子ども達は迷う
- ・ 集まりの時に、椅子ごと前を向くように指導すること
- ・ 個別でのかかわりの中で全体を常に見ること
- ・ 一人一人への声かけと全体への声かけの声の大きさ
- ・ 全体に話をする時には、子ども達全員が保育者の方を見ていることを確認してから話をしないと伝わりにくい
- ・ 一度に子どもを動かすのではなく、少人数ずつの方がよい
- ・ 導入、まとめをしっかりとする
- ・ 子どものうずの中に入るだけではなく、1歩下がって全体に目を通すことも必要
- ・ おやつや給食の準備の時、座っている子どもを待たせない
- ・ 「今から～するよ」とはっきり言う
- ・ 実際クラスの担任は一人なので、補助の先生がいなくても薦められる

ように計画を立てる

- ・ 子どもの前に立つときは、まず子どもを落ち着かせる
- ・ 積極的に子どもに話しかけ、全体を見る
- ・ 保育者が主体となり子どもをリードする
- ・ 子どもに自分をアピールして積極的に動く
- ・ 大きな声でゆっくりと話す
- ・ 注意事項は、みんなに1度言うてから、一人ずつ確認するとよい
- ・ 子どもたちに伝えたいことを全て伝えてから次の活動に移る（約束など）

#### <積極的な援助・態度>

- ・ 保育者自身楽しむこと
- ・ 表現力を高めること
- ・ 教材研究・事前の準備
- ・ 手洗いの声かけ
- ・ 場所の選び方、広さや状態  
(遊戯室は遊具があり遊びたがる)
- ・ 週の目標やねらいを担当の保育者に聞き、指導案を作るとよい
- ・ 危険がないように見守る
- ・ 発音をはっきりとする
- ・ 駄目なことは駄目と伝える
- ・ 場所を変えたり、音楽を使用したりして関心を高める
- ・ 現場の保育者と同じようにしようと思わず、よいところを参考に自分なりの保育をする
- ・ 教材研究をすること
- ・ 製作をするときには、保育者が

様々な材料を試してから子どもに伝える

- ・ 学生の存在を意識してかかわろうとしているときに、積極的にかかわり失敗を恐れない
- ・ 子どもをよく知るには、たくさんかかわり、一緒になって遊び、子どもの目線に立つ
- ・ 活動の中で子どもたちが別の所に興味が変わったときは指導案どおりでなくてもよい
- ・ 主活動だけではなく、生活面での保育者としての関わりも大切
- ・ 台本を見ずに、子どもの顔を見ながらする
- ・ 指導案の内容を1度やってみると準備するべきものが見えてくる
- ・ 子どもの気持ちに気付いて待つこと
- ・ 職員同士の連携
- ・ 自分から子どもに遊びを誘う
- ・ 意欲を出すことができるような言葉かけ（「ちょっと難しいけれどできる？」など）
- ・ 健康を維持すること
- ・ 質問を積極的に行う
- ・ 声を大きく、笑顔を増やす
- ・ 自分のクラスの子どもを他の先生に預けたときは、自分のクラスの先生に伝える。
- ・ 周りを見て機転を利かせて、することがないか探す
- ・ 子どもの注目を浴びているときには、手の位置に注意する（子どもの注目が手にいく）

- ・ 呼び捨てをしない
- ・ いつも頭の中に指導案をもつイメージで接する
- ・ 子どもだけではなく、親や地域の方とのかかわりを大切にする
- ・ 指導案の内容は多めに用意しておくが、子どもの様子と時間を見ながら臨機応変に対応する
- ・ トラブルになっているときに、解決への別の道もあることを教えて、次から同じことが起こらないようにする
- ・ プラス思考で心のどこかに余白（余裕）をもつことが大切
- ・ わからないことがあったらすぐに聞く
- ・ 一つのトラブルをしっかりと解決するか担任に引き渡してから次に移る
- ・ 一番に子どものことを考え、先生のことをあまり気にしない
- ・ 気になる子どもなどポイントをおいて見る目が必要
- ・ 男性らしさを出し、もっとダイナミックに
- ・ 子どもの集中力は短いことを考えて保育する
- ・ 昼食後の外遊びは怪我が多いので気をつける
- ・ ピアノは弾けるようにする
- ・ 間を考え、しゃべりすぎない
- ・ 愛情不足の子どもには甘えさせる
- ・ 手遊びを有効に使う
- ・ 学校で作った物をもっと使ってもよい

- ・ 集中する時間と好きに遊ぶ時間のメリハリをつける
- ・ 声のトーンを変える
- ・ ものづくりでは、子どもがイメージしやすいような言葉かけをする
- ・ 静と動の活動をうまく使い分けて遊べるとよい
- ・ 慣れることが大切
- ・ 日々の勉強が大切
- ・ 先生の技を盗む
- ・ 子どもの心に響くような言葉かけ
- ・ 多様な遊び方を工夫し、応用
- ・ 新しい遊びは、初めは保育者中心で、最後には子ども主体になるようにする

#### <発達に合わせた援助>

- ・ 生活面は、3歳児を中心に援助
- ・ 異年齢の場合の年齢に合った配慮
- ・ 興味・関心の引き方
- ・ 保育者が提案する前に、子ども達自身が考えられるような声かけ
- ・ 子どもの特徴について反省会で聞き、願いを共有した
- ・ 衝突を避けるため鬼ごっこをするときに、トラックに沿って走り逆まわりをしない
- ・ パネルシアターでは、見るだけではなく、触る機会ももつと子どもが落ち着く
- ・ 子どものかみつきや怪我については必ず保育者に伝える（保護者に説明するため）
- ・ 月齢差などでできる子とできない子がいる。できない子にも目を向け

て全体を見る

- ・ 危ないと思ったことはすぐ止める
- ・ 一人一人の発達を知り、援助すること
- ・ 子どもができることをしてあげない
- ・ 子ども達の得意、不得意を知ると言葉かけなどの配慮がしやすくなる
- ・ 子どもが間違えたとき、「誰でも失敗するよ」などと安心する声かけをする
- ・ アスペルガー症候群には、視覚的に表すとよい
- ・ 話すとき、保育者の目線ではなく子どもの目線で話す
- ・ 子どもの甘えは、まずは受け止める
- ・ ひっかく子どもはすぐに止める(子どもの体に傷をつけたくない)
- ・ 子どもにわかりやすい言葉遣いに気をつける
- ・ 子どもが自分で気付くことができるような言葉かけ「～しられ」ではなく、「今何をするときかな？」
- ・ 縦割りでは、製作、課題活動時の指導案のねらいは到達点を同じにせず、3, 4, 5歳児それぞれのねらいを書く
- ・ 当番活動を仕事として片付けず、その子のレベルを知る機会ととらえる
- ・ 気になる子どもには、声をかける
- ・ 子どもが自分で考えて作ることは難しいので、選択できるようにすればよい

- ・ 抱っこしているときにたくさん話しかけるとよい
- ・ 気になる子とのかかわりは、何が絶対の正解かは言えない

#### <保育の流れを意識した援助>

- ・ 時間が余った場合の活動の引き出しを多くもつこと
- ・ 子どもと関わるだけでなく、保育の流れに沿って何をすればよいか(環境構成など)を考えて活動する
- ・ 一人一人どれくらい食べられるか聞く
- ・ 遊びの時間をたっぷりとることが大切
- ・ 片付けの意味をわかりやすく伝える
- ・ 常に時計を見て、保育者が子どもたちに次の活動を促す
- ・ 環境構成については、場面に応じ、机などを臨機応変に移動させるとよい
- ・ 製作した物を園庭に持っていくとき、大型遊具で遊ぶときは、物を持って遊ばない。物を置ける場所、机などを用意する
- ・ 全日のときに時間の流れを意識する(子どもの遊びの盛り上がりと、片付けの兼ね合い)

#### 4 短大で保育実習前に望む指導

##### (1) 指導案の書き方

- ・ 実際に書いてみて指導してもらう
- ・ みどり野幼稚園との形式が違うので早い段階から長い時間をかけて指

導してほしい

- ・ 1つの事例でみんなて細かく必要なことを考える
  - ・ 先輩の指導案を見たり、話を聞いたりする
  - ・ いろいろな種類について知る
  - ・ 担当の先生と一緒に指導案を事前に検討
- (2) 先輩の成功談、失敗談などを聞く
  - (3) 伝承遊び
    - ・ 折り紙
    - ・ あやとり
  - (4) 早番、遅番などの当番について
  - (5) 体育系の導入の仕方を詳しく知る
  - (6) 部分・全日担任の仕方
  - (7) 子どもの甘えの受容
  - (8) 日誌の書き方  
初めての實習の時は、詳しく書き方を教えて欲しい
  - (9) 実習園についての情報
  - (10) 紙芝居での興味の引き方
  - (11) 個別配慮児への援助
  - (12) 環境構成について
  - (13) 手遊びの種類
  - (14) 年齢別の遊びや工作、活動資料
  - (15) 異年齢児の一斉活動における注意点
  - (16) 名簿がもらえればよい
  - (17) 人気の絵本、紙芝居ランキング
  - (18) 実践的なピアノ
  - (19) 活動の内容になるようなネタ
  - (20) 集まりで関心を引く方法
  - (21) ふざけている子への対応
  - (22) けんかの仲裁の仕方
  - (23) 子どもの特徴や様子についての説明
  - (24) 意欲のない子どもへの対応

(25) 保育所の方針について

(26) 園の保育計画

(27) 実習前に自分で教材を準備

(28) カウンセリングのノウハウ

保育実習Ⅱ・Ⅲでは、1人で行う部分・全日担任があり、指導案も重視される。県内の様々な保育所・施設で実習をするため、付属幼稚園での指導案形式だけでは、対応できない。さらに、異年齢での活動も多く、各年齢に対応したねらいや活動についての知識が必要となってくる。

特に、指導案の書き方については、より一層の指導を望む声が多かった。付属幼稚園では、部分担任用の指導案であり、量的にも1枚書く経験しかしていない。しかし、保育実習で求められる指導案は、質的に、より具体的に細かい援助が書かれたものであり、そのことから、量的にも5、6枚以上は書く学生が多い。ここに、大きなギャップがあり、困難さを抱える原因となっている。

先輩の成功談、失敗談を聞く試みは、平成18年度から行っており、おおむね好評を得ている。

今後の課題としては、各年齢の発達的特徴をふまえた実践的な教材研究を行い、質量共に充実した指導案を書き、評価を受けてから実習に臨むことができる体制作りが望まれる。授業時間数との兼ね合いもあるが、より一層実習指導を充実し、学生の成長に資するようしていきたい。